

平成29年度学校評価 集計の結果

たむら支援学校

今年度の学校評価アンケートの結果がまとまりました。保護者及び学校評議員の皆様には、お忙しい中ご協力をいただき誠にありがとうございました。

今回の結果を受け課題となる項目については、担当部署で改善に向けて具体的な方策を検討し、次年度の計画に盛り込んでいきます。

【評価基準】

- A とてもよくできている、とてもよくあてはまる
- B よくできている、よくあてはまる
- C あまりできていない、あまりあてはまらない
- D できていない、あてはまらない

【回答者数】

(小学部) 保護者	23人	教師	20人
(中学部) 保護者	8人	教師	8人
(高等部) 保護者	5人	教師	9人
(評議員)	5人		
(合計)	78人		

(1) 児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導を充実させます。

①主体的に学ぶ意欲と態度を養う授業作りを目指します。

		A	B	C	D
全 体	保護者(36人)	23	13		
	%	64	36		
	教 師(37人)	17	19	1	
	%	46	51	3	
学校評議員(4人)		4	1	0	0
		80	20		

・児童生徒が自ら意欲的に学ぶことができるよう、個別の学習とともに開放的なスペースを最大限に生かした学部単位の学習などにも対応できるよう新しい教材教具を配置し、学習環境を整えることに努めました。

・春山校舎体育館が耐震工事のために使用できなかったことから、年度当初からプレイルームを会場として儀式や学校祭などの行事を行いました。プレイルームの良さを生かし、環境が大きく変わった児童生徒たちを和やかで暖かい雰囲気の中で迎えることができました。保護者の皆さんは、授業参観や行事のときに、子どもたちが生き生きと、自ら活動する様子を見て安心できたことが60%以上がAという高評価につながったと考えます。一方、教師は、体育館とともにプールの設備も使用できなかったことから、「学習環境の整備」は十分ではないという思いがあり、半数がBという評価結果に現れていると考えます。

・今年度は、児童生徒一人一人の良さを生かした授業づくりをすることを全職員で確認し合いました。その上で各学級の授業を全体に公開し、授業に関する考察会を行い、そこで得られた課題や授業改善に向けたアイデアを全教員で共有し、授業づくりに生かすことにつなげました。二つの校舎に分かれている教員が学部を超えて授業を見合うこともありました。今後も、児童生徒の教育的ニーズに応じた指導の充実のため授業研究を継続し、教師の自己評価を上げることにつなげていきます。

(1) 児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導を充実させます。

②障がいの特性に応じた指導の充実を図ります。

		A	B	C	D
全 体	保護者(36人)	22	14		
	%	61	39		
	教 師(37人)	20	16	1	
	%	54	43	3	
学校評議員(4人)		5	0	0	0
		100			

・新入生だけでなく、たむら支援学校の子どもたちは障がいの特性も多様であるとともに、全員が学校を変ったため、特に情緒面に影響が出るのが心配されました。そんな中、まず第一に初めて出会う教員との学校生活が「わかる」「できる」「もっとやりたい」の連続となるよう、学年や隣接学級の教員同士で話し合い一人一人の個別の指導計画を作成しました。また、指導の際には、特性に応じて視覚的な情報を用いるなどの支援をしてきました。個別懇談のときなどに指導計画についていねいに説明をしたことも、1名を除き保護者、教師ともにA・B評価に集中し、半数以上がAという結果につながったと考えます。今後もこの取り組みを継続していきます。

(2) 心身共に健康で将来の夢の実現を促す教育を推進します。

- ① 心身の健全な成長を促し、児童生徒相互の好ましい人間関係を育成し、社会的な資質の向上を図ることができるような道徳教育を推進します。

		A	B	C	D
全 体	保護者(36人)	20	15	1	
	%	55	42	3	
	教 師(37人)	21	14	2	
	%	57	38	5	
学校評議員(4人)		5	0	0	0
		100			

・学校のバスを使った校外学習を数多く実施しました。友達や教師と一緒に、児童生徒の興味関心に沿った活動をする中で、同じ学校に通う仲間として認め合うようになり人間関係に深まりが見られました。高等部においては、船引高校と一緒にあいさつ運動や奉仕活動に取り組むなど、様々な体験を通して集団活動のルールやマナー、地域の人とのやりとりを学ぶことができました。

・各学部ともに肥満傾向の児童生徒が複数見られたことから、体重測定や朝の運動などを習慣にし、養護教諭による保健指導をするなど心と体の健康作りをしました。

評価の結果を見ると、C評価の数が、保護者1、教師に2名と、全項目の中で最も多くなりました。「心身の健全な成長」「好ましい人間関係の育成」などは保護者のニーズが高い内容であることがわかります。「社会的な資質の向上」「道徳教育の推進」は教師が高い課題意識をもち、実践の内容が多岐にわたるため、日々、指導の困難さを実感しています。そのことがC評価が複数見られた理由の一つと考えます。次年度は、教育的ニーズに沿った指導上の課題を明確にして、実践の改善に努めると共に、ホームページを始め、様々な機会をとらえて児童生徒の活動の様子を発信していきたいと思えます。

(2) 心身共に健康で将来の夢の実現を促す教育を推進します。

- ② 自立と社会参加に向けた職業教育を充実させます。

		A	B	C	D
全 体	保護者(36人)	26	10		
	%	72	28		
	教 師(37人)	22	14	1	
	%	59	38	3	
学校評議員(4人)		4	1	0	0
		80	20		

・児童生徒の自立と社会参加に向けて、中学部、高等部では作業学習に取り組んでいます。産業現場実習の期間は、校内では外部から委託された組み立て作業を、高等部生徒は事業所等で実習を行う子もいました。それぞれが緊張感をもって初めての作業に取り組み、事前に設定した目標を達成することができました。高等部生徒は開校間もない時期に「作業技能大会」「アビリンピック」に参加するなど、職業教育の充実につながる取り組みを始めています。

他の項目と比較して保護者の評価が最も高くなりました。関心の高い項目であることがわかります。中学部・高等部教員の評価も全体の中で最も高く、目標達成に向けて高い意識をもって実践してきたことが読み取れます。次年度は、今年度の取り組みを継続するとともに、さらに、二つの校舎間の情報の共有に努め、中学部と高等部の現場実習における協力・連携などを進めていきます。

(3) 保護者や地域と共に歩む学校を作ります。

- ① 保護者や関係機関と連携を図りながら支援体制を充実させます。

		A	B	C	D
全 体	保護者(36人)	24	12		
	%	67	33		
	教 師(37人)	22	14	1	
	%	59	38	3	
学校評議員(4人)		5	0	0	0
		100			

・毎日の登下校時の引継ぎ、連絡帳でのやりとりを通して保護者と連絡を密に取り合い、学級懇談や個別懇談の場において、ていねいな説明をすることに努めました。また、必要に応じて児童生徒が利用する福祉事業所との情報交換や関係機関が集まるケア会議を実施しました。

・高等部では、JAや近隣の高等学校の協力により、充実した交流及び共同学習や体験活動ができました。専門家からのアドバイスを受けることで作業学習や進路指導とも関連させることができました。

・各学部ともに保護者のA評価が60%を超えており、評議員の方も全員がA評価でした。新入生の保護者だけでなく、新しい学校に移り不安を抱える保護者の方にも安心していただける環境を作り、担任を中心に保護者の思いに寄り添った対応に心がけたことが高評価につながったと考えます。

今後も保護者や関係機関と連携を図りながら支援体制を充実させます。

(3) 保護者や地域と共に歩む学校を作ります。

② 地域の特別支援教育の推進を支援し、地域と学校が一体となって児童生徒を育成します。

		A	B	C	D
全 体	保護者(36人)	21	14	1	
	%	58	39	3	
	教 師(37人)	19	17	1	
	%	51	46	3	
学校評議員(4人)		4	1	0	0
		80	20		

・6月に校庭で運動会を実施し、多くの地域の方の参加がありました。それがきっかけとなり、近隣住民の方から所有している畑やめだかの提供があり、中学部の作業学習や小学部の栽培活動をするための畑作りの協力もいただきました。秋には、大きく育ったさつまいもを収穫し、学校祭での販売活動にもつながりました。春山校舎では、めだかを毎日、楽しそうに見ている子どもたちがたくさんおり、地域の方に支えられていることを日々実感しています。

・高等部では田村市図書館の団体貸し出し事業を活用して、石崎校舎内に図書スペースを作り、生徒の読書習慣作りに取り組みました。

・評議員の方にB評価が1、保護者の方にC評価が1ありました。特に近隣の市町村から通学する児童生徒の保護者にとっては、地域の方に学校を知っていただき、地域の学校として認知されるようになったのかと考えると、評価が難しい内容だったようです。1年間での達成は難しい内容とも考えられます。今後は学校の取り組みについて常に評価し、「地域と学校が一体となる」ことを目指した実践に段階的に取り組むとともに、「地域の特別支援教育の推進の支援」状況と併せて、保護者の方にわかるように発信していきます。

(3) 保護者や地域と共に歩む学校を作ります。

③ 地域で共に学び共に生きる教育を推進します。

		A	B	C	D
全 体	保護者(36人)	20	16		
	%	56	44		
	教 師(37人)	22	14	1	
	%	59	38	3	
学校評議員(4人)		5	0	0	0
		100			

・小学部は地域のボランティアを招いての「おはなし会」を開催しました。中学部はあぶくま支援学校のスポーツ大会に参加し、大きな集団の中で競い合う体験ができました。いずれも、来年度に向けての計画が始まり、さらに交流及び共同学習が広がることが期待されます。高等部は船引高等学校の生徒と同じ校舎で学校生活を送る中で、挨拶を交わし、一緒に活動をする機会も増えてきました。自然に触れ合う中で、相手のことを理解し、互いの良さを認め合えるようになったと感じます。小野高等学校の生徒とも作業を共にして、小中学部の卒業式に飾る花作りにつながっています。保護者、教師、評議員ともにほぼA・B評価で、今後も今年度同様に地域で共に学び共に生きるための実践を継続していきます。